

～安心して住み続けられる 当別を目指して～ 2つの構想を策定しました

■ 問合せ 企画課都市計画係 (☎ 23 - 3198)

当別町では昭和 63 年の当別大橋開通後、人口流入が進み、平成 11 年までに 20,000 人を超えましたが、その後は人口減少が続いており、今後も一層の人口減少、高齢化が進むことが想定されています。この課題の解決に向け、人口減少問題の克服、誰もが安心して住み続けられるまちを目指して、当別町では次の構想を策定しました。

★ 当別町生涯活躍のまちづくり基本構想（当別町版 CCRC）

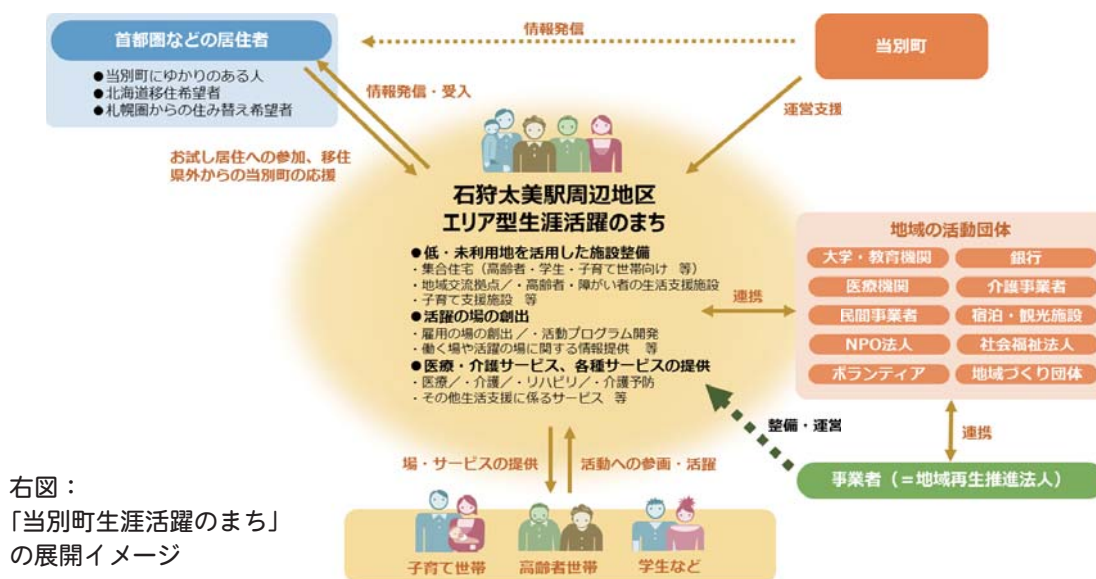
当別町の「総合戦略」を踏まえ、「魅力にあふれ、住み続けたいと思えるようなまちづくりのあり方」を検討した結果、多彩な技能や知識を有するアクティブシニア層を含む多世代を呼び込み、町の活性化につなげていくための構想をまとめました。

■ 目指す生涯活躍のまちづくり

- ① 太美地区の利便性の向上、
駅周辺を中心とする賑わいの創出
- ② 移住者と地元との交流による
共生型の地域づくり
- ③ 地域包括ケアシステムの進展、
地域医療・福祉のサービスの一層の底上げ

■ 実現イメージ

町内外の福祉事業者や地域活動団体と連携し、移住者へ活躍できる場を提供することによりアクティブシニアの転入増加、雇用拡大による若者世代の流出抑制や、多世代交流による定住促進を促し、高齢化しても健康で長生きを続けられる環境を整備します。



★ 北の住まいるタウン（北海道が推奨するまちづくり計画）

北海道の地域特性を活かし、誰もが安心して心豊かに住み続けられるまち・地域を目指す「北の住まいるタウン」に、当別町の「総合戦略」に基づいたまちづくりの考え方が評価され、そのモデル市町村に、当別町と鹿追町が選定されました。

これを受けて町の課題を整理したうえで、「コンパクトなまちづくり」「低炭素化・資源循環」「生活を支える」を柱に今後のまちづくりの方向性をまとめました。

(次ページへ)